

## 121024 ホウジャク（蜂雀）

昨日の10月23日は二十四節気では「霜降」(そうこう)、いよいよ晩秋を迎え、朝夕の冷え込みが冬の到来を感じさせる季節です。

「霜降」とは文字通り、“霜が降りる”という意味ですが、この時期、山の上では「霜」が降り始める頃なのでしょう。

でも、平野部ではまだまだ先、十二月に入ってからになりそうです。

さて、南河内の山々では、日中は暖かな日もありますが、肌寒く感じることも多くなってきました。

山頂部では、“避暑”にやってきていた「アキアカネ」の数もずいぶん少なくなってきました。

既に多くの個体は、繁殖地である山麓の池や田んぼに移動したのでしょうかね。

そのような中、草原の中で薄紫色の花をたくさん咲かせているアザミ、「モリアザミ」でしょうか、その花のそばで「ハチドリ」のような虫がホバリングしているを見つけました。

結構たくさんの個体が、花から花へとしきりに、そして高速に移動しながら、ホバリングしているのです。

一体、何をしているのでしょうか？

近づいてじっくり観察してみると...

何と、ホバリングで空中に静止しながら、超長い口で花の蜜を吸っているのです！！

そしてその実体は...

スズメガの仲間、「ホウジャク」という種類だったのです。

ハチのごとく直線的に飛び回りますが、「蛾」の仲間なのです。

ハチのようなスズメガなので「蜂雀」(ほうじゃく)なのでしょうね...

そのまま「ホウジャク」という種もいるのですが、今回、撮影したのは「ホシホウジャク」と「ヒメクロホウジャク」という2種です。

スズメガの仲間の多くは夜行性なのですが、ホウジャク類は昼間に活動しています。

ちなみに街中では、羽が透明な「オオスカシバ」という似たような種がありますが、こちらもホウジャク類です。

ホウジャク類がホバリングしている姿を、真横から高速度カメラで撮影すると、羽を8の字を横倒し( )にしたような動きをしています。

この動きで重力と揚力が釣り合い、空中静止が可能となるようです。

さて、ホバリングするためには、どれくらいの羽ばたきが必要になるのでしょうか？

1秒間に10回？ 20回？ 30回？ いえいえ、そんなものではないらしいのです。

本などで調べてみたところ...

トンボ： 20回/秒  
ハチドリ： 55回/秒

ホウジャク： 70回/秒  
ミツバチ： 200回/秒  
蚊： 600回/秒

我々人間の想像をはるかに超える回数なのですね...

**写真： ホシホウジャク**

咲き乱れる「モリアザミ」の蜜を吸っています。  
羽を広げた大きさは40mm程度です。

**写真 ~：ホシホウジャク**

6枚目の写真を見ると、その口の長さに驚かされますね...

**写真： 羽を休めるホシホウジャク**

これが葉にとまっているときの「ホシホウジャク」です。  
超高速（時速50km近い）で飛翔し、花の前ではホバリング、あの素敵な虫もこの写真を見れば... ただの蛾ですね...

**写真： ヒメクロホウジャク**

同じホウジャク類ですが、種類の違う個体も混じていました。  
こちら、羽を広げた大きさは40mm程度です。

















